

S S T L

NO. 62 2019. 1. 21

職場参加ニュース



「よ〜いどん」(生活クラブの市民事業寄付制度) 200%超達成 ご協力ありがとうございました!

昨年、生活クラブ生協さいたまのよ〜いどん!「市民事業寄付制度」にエントリーしました。

事業内容は「しらこぼと笛の作成事業」です。この笛や土鈴は、昔はあちこちで見られた県鳥でもあるしらこぼとをかたどった可愛らしい置物(実際に吹くとしらこぼとの鳴き声に似た音がします)です。

越谷の地元の「ひな源」さんが本業の合間に1人で製作していましたが、越谷市から「人権の日」に配るしらこぼと笛と土鈴の作製を依頼された時に、障害のある人にその絵付けをしてもらったらどうかと当法人に声を掛け、絵付けの指導もしていただき笛と土鈴の絵付けをして絵付けをした人には手間賃をいただきました。

このコラボをもっと続けたいと生活クラブの寄付制度にエントリーしましたが、希望額をはるかに超える207%もの思いもよらぬほどの寄付をいただきました。これでまた製作を開始できます。

私たちはエントリー中は、実際にしらこぼとを見に行き、行ってフェイスブックやブログに「しらこぼと」に関する写真や毎週最新の活動をアップし、PRに努めました。

御寄付を頂いた方たちに、心より御礼申し上げます。これから、今年が良き1年となることを祈りつつ、御礼のしらこぼと笛か土鈴の発送作業に取り掛かります。楽しみにお待ちください。(写真は越谷・水辺の市にて)

市長

様

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

代表理事 山崎 泰子

埼玉県越谷市東越谷 1-1-7

職場参加ビューロー世一緒内

2018年度共に働く街をめざす提言

当会の日常の取組と2018年12月9日に開催された「共に働く街を創るつどい2018」の成果を踏まえ、下記の通り提言を行います。

記

- ① 2013年の学校教育法施行令改正により、障害のある生徒も地域の学校で共に学ぶことが原則となり、特別支援学校への就学は本人・保護者の希望を含めた総合的判断によることになりました。共に働く街の基礎として、共に学ぶことを実現する施行令改正に合わせた貴市の就学手続きの改定が重要です。
- ② 省庁・自治体の障害者雇用は、不足分に対する数合わせではなく、障害者が民間企業や福祉の場で分け隔てられながら働かざるを得ない状況を踏まえて、その課題と支援策のありかたを、省庁・自治体の施策担当者自らが共に働くことを通じて、地域の人々と一緒に悩み、工夫してゆくために必要不可欠であることを確認しながら、常に現状を見直しつつ進めてゆくことが大切です。
- ③ 数字上は伸びてきているとされる障害者雇用のかなりの部分は従来一般枠で働いていたような人々が障害者枠に移行してきたことによります。半面で福祉施設の利用者は増加の一途をたっています。この現実を踏まえ、就労系だけでなく生活介護、地域活動支援センター、精神科デイケア等にも施設外就労加算を支給したり、広義の施設外就労を受け入れる企業等への支援策等が必要です。
- ④ 多様な働き方を実現するには、東大先端技術研究所と川崎市等が連携して実施している「超短時間雇用」を参考に、従業員数50人未満の企業等を含む共に働く地域づくりを試みる 것이重要です。
- ⑤ 働きづらさ・生きづらさを抱える人々が、共に生きる社会、資源やエネルギーの再生産を可能とする循環型社会をめざし、共に働き、共に運営する「社会的事業所」や「協同労働の協同組合」をめざす事業活動を貴市として支援するとともに、法制化への取組みを応援するよう提言します。
- ⑥ 上記の事項に関し、貴市において障害者計画、障害福祉計画や高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、次世代育成支援行動計画、教育振興基本計画、地域福祉計画、総合振興計画等の見直しの際に、共に学び、共に暮らし、共に働き合う街づくりの視点が反映されることを強く要望します。



12月9日(日)、当法人は、臨時総会、共に働く街を創るつどい2018(「つどい」)、共に働く街をめざす自治体提言発表という三つの大事な行事を行った。ここでは、「つどい」を中心にお伝えする。(なお、臨時総会は定款に相談支援事業を書き加えることを決議。提言については、本誌2ページに掲載した。)

1. 共に働く街づくり一国・自治体の障害者雇用施策の現状とこれから

「つどい」では、「共に働く街づくり一国・自治体の障害者雇用施策の現状とこれから」というテーマで法人運営委員のわらじの会・辻彩子さんが総合司会を務め、冒頭に、さいたま市議で車いす使用者の伝田ひろみさん、さいたま市のステップアップオフィスマネージャーで副参事の得丸智弘さん、そして越谷市人事課副課長の小田哲郎さんから現状報告をいただいた。

伝田さんはご自身が代表を務める障害者の政治参加をすすめる全国ネットワークが国へ抗議と要望を行った後野党合同ヒアリングに同席した報告や、さいたま市が自力通勤・介助者なし勤務の受験制限を撤廃したこと、そして重度訪問介護を就労にも利用できるよう市として国に要望中であることなどを報告した。

得丸さんはさいたま市が知的障害者・精神障害者のチャレンジ雇用の独自の場であるステップアップオフィスで、現在14名が働いており、目的として市役

所内の雇用促進、民間就労へのステップアップ、そして役所内の「共に働く」環境づくりがあり、副次的産物として職員の超過勤務の削減にもつながっていると報告した。

小田さんは市として雇用率の算定で不適切な取扱いがあったことへの反省を述べた後、7月から知的、精神の2名の障害者を臨時採用し、再任用職員が支援をして役所内の各課の依頼業務を行ったり、時にはその課に行って業務を行っていることを報告した。

2. 雇用義務制を超えて、共に働く街づくり—それぞれの試み

現状報告を受けて、法人の運営委員でもある県立大学教授の朝日雅也さんをコーディネーターとしてパネルディスカッションを行った。パネリストは、伝田さんと高城徹さん(社福つぐみ共生会非常勤職員)、瀬戸睿さん(医社俊睿会・南埼玉病院院長)、栗田美和子さん((株)クリタエイムデリカ社長)。

ところが、栗田さんの乗った新幹線がストップして時間に間に合わないのが、急遽専務の栗田慶太郎さんが冒頭のみピンチヒッターで来ていただいた。

栗田専務は、現在知的障害者5名を採用しており、将来は10名をめざしたいと述べた後に、障害者雇用は特別なことでなく人間としての営みの問題で、会社も社会の一部であり、社会のためにあるからそこに存

在できるという原点を述べて、帰られた。

その後、新幹線がようやく動いて駆けつけていただいた社長が休憩を挟んでの第2部から参加されるというドラマチックな展開となった。

その社長は、そもそも無理やり何人雇えということよりも、一人一人に合わせて、本人が働いて楽しいと思える仕事をどう切り出すかということに、国全体としてチャレンジすべきで、10人働いているところもあれば、1人しか働けないところがあってもいいのでは、と雇用促進制度のありかたも含めて提起された。

高城さんは30代後半まで公務員だったが、上司とのストレスで躁うつ病を発症し、精神の手帳を取って退職。数年のブランクの後障害者枠で物流倉庫、訪問入浴の事務、ヘルパーの仕事を経て、現在べしみの職員として働いている。役所にいた経験では、どうしても波風を立てないように行動しやすいが、障害のある本人を訪問し、しっかり見てもらいたいと思うと述べた。

根底には日本社会の差別があり、無理やり平等にしていることに問題がある、企業の障害者雇用のほとんどは最賃に近く、週40時間、介助者なしとの条件で、精神は書類選考で落ちるし、職場の理解もなく孤独になってゆく、と高城さんはふりかえる。

瀬戸さんは、かつてベトナムで闘っている人々に連帯して闘い、独房で10ヶ月過ごしたことが自分の誇りになっており、今回の入管法改正で、現在もある外国人の過酷な低賃金労働が拡大してゆくことに対し、共闘できたらという思いがあるという。

障害者雇用も低賃金で、福祉の場はさらに低い状況に腹が立ってしまう。患者さんにもまずは平気ですそをついて、一般枠で仕事を探したらどうかと勧めたりもする。人によっては30年病気を隠したまま働いている人もいて、病気がわかっても実績を買われているからそのまま働いてくれと言われるケースもあると話していた。当事者・家族が団結して活動するこうした会は大事で、もっと発展するようにわれわれも努力したいと述べられた。

伝田さんは、省庁やさいたま市が自力通勤・介助者なし条項をはずしたが、実際に重度障害者が働ける制度はできておらず、介助の制度を労働に合わせて作り変えるべきだし、医学モデルに基づく手帳制度も社会

モデルの考え方により見直す必要があると述べた。また、明石市の例だと思うが、聴覚障害の職員のために手話通訳の職員を雇い入れ、通訳をしない時は事務補助として働いてもらっていると聞いた、そのように個々で工夫を重ねてゆくことも大事だと語る。

3. 現状報告とディスカッションを踏まえて

会場から立命館大学で障害学を研究する増田洋介さんが指定発言を行い、雇用する側が社会の一員として採用するとか、ワークシェアリングとか、発想を拓けることで機会が増えるのではないかと、一方それが低賃金労働につながることの危険も含めて考える必要があること、また働くことが就労能力、身辺自立に限定されている現状を変えるために労働部門と福祉部門の連携が必要だと述べた。

コメンテーターの得丸さんからは、栗田社長が語られた観点で人それぞれに応じた仕事の切り出しをしており、結果としてその後一般就労した8人もそれぞれの現場で継続して働いているとの発言があった。

越谷市障害福祉課副課長・田中克尚さんからは、栗田専務の、みんなで幸せになるという言葉に感銘を受けた、また業務上あまり現場に行けてないがこれからはやっていきたいというコメントをいただいた。

これらを受けて、コーディネーターの朝日さんからは、今回の件は拙速な数合わせでなく、本質的に障害者就労を考えてゆくチャンスととらえるべきで、公務部門が障害者雇用を行う際の役割は民間に範を垂れる先駆性を示すことであり、それは今回の事態をふまれば公務部門だけでは行えないことが明らかだ。この機会にいろいろな知恵を団体から引き出し問題を解決してゆくことが大切だと述べられた。

最後に総合司会の辻さんから、越谷市は市役所等の公的機関と民間の職場で福祉施設等の利用者が職員等の支援を受けて実習を行う「障害者地域適応支援事業」を10数年続けており、それを洗い直すことからヒントがいろいろみつかるのではないかと発言があり、「つどい」を終了した。

日々の暮らしと労働と思いによって生きられた、温もりと涙と笑いと驚きと怒りがにじむ 社会像を掘り起す

すいごごカフェ 1/21~2/27 1時半のゲスト 	
<p>21日(月) 倉川 秀明さん 有機農業生産者</p> <p style="background-color: #ffff00; padding: 2px;">せんげん台すいごご(この日は月曜)</p>	<p>パプアニューギニア</p> <p>かつて JICA 派遣の日本語教師として住民たちと暮らしたあの地へ、先日再訪した報告を中心に。現在の有機農業生産者人生はアジアの人々との出会いから始まった</p>
<p>30日(水) 樋上 秀さん たそがれ世一緒管理</p>	<p>暮らしやすい街って</p> <p>誰もがくらしやすいまちづくり実行委員会の代表を務め、避難所一泊体験等にも取り組んできた樋上さんにとっての「くらしやすいまち」とは。</p>
<p>2月6日(水) 中原 清さん 就労移行利用者</p>	<p>閉鎖・移転にめげず</p> <p>中学卒業後 30 数年、中小零細企業の現場で、くりかえされる工場閉鎖や移転にもめげず、不屈の志で働き続けてきたその軌跡をふりかえる。</p>
<p>13日(水) 幡本 建祐さん フラッシュバック研究者</p>	<p>不幸自慢の部屋から</p> <p>自閉症と診断されしばらくは両親を責め、暴れた。が「不幸自慢の部屋」との出会いから自分の面白さに気づき、「フラッシュバック研究」を長期執筆中。</p>
<p>20日(水) 未定</p> <p style="background-color: #ffff00; padding: 2px; transform: rotate(-15deg);">Lunch Café どっこいしょ せんげん台</p>	<p>未定</p> <p>この日は Lunch Café どっこいしょを含めて、せんげん台イオン並びの就労移行支援「世一緒」で行います。カレーは予約をお願いします。</p>
<p>27日(水) 大熊 真弓さん 生活クラブ生協越谷ブロック</p>	<p>埼玉の現在&八丈島を語る</p> <p>大学時代のニックネーム「おきょん」をメアドに。吉川に住み生活クラブと教会活動をパワフルに進める現在の思いをたぐり、故郷八丈島の生活文化に遡る。</p>

おすすめる会 2019年1月～3月 カレンダー (2019.1.11作成)

2019年1月			2019年2月			2019年3月		
日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか
1日	火		1日	金		1日	金	
2日	水		2日	土	しらこぼと館	2日	土	しらこぼと館
3日	木	休	3日	日		3日	日	cafeのくちかふへ
4日	金		4日	月	ポスタインダ?	4日	月	ポスタインダ?
5日	土		5日	火		5日	火	
6日	日		6日	水	当番安藤	6日	水	当番安藤
7日	月		7日	木	すいごカフェ(中原さん)	7日	木	すいごカフェ(竹垣さん)
8日	火	緑谷水辺の市	8日	金	しらこぼと館	8日	金	しらこぼと館
9日	水	当番安藤	9日	土	ミニTOKO	9日	土	ミニTOKO
10日	木		10日	日		10日	日	
11日	金	たそがれ	11日	月		11日	月	
12日	土	しらこぼと館	12日	火	緑谷水辺の市	12日	火	緑谷水辺の市
13日	日	べみ地域交流まつり大会	13日	水	ポスタインダ?	13日	水	ポスタインダ?
14日	月		14日	木	たそがれ	14日	木	たそがれ
15日	火		15日	金	しらこぼと館	15日	金	しらこぼと館
16日	水	職場参加を語る会	16日	土	わらわら工運健康座	16日	土	どよう世一緒
17日	木	ポスタインダ?	17日	日		17日	日	障害者制度改善場玉セミナー
18日	金	たそがれ	18日	月	水上公園共同作業	18日	月	
19日	土	どよう世一緒	19日	火	うんとこしお会	19日	火	
20日	日		20日	水	職場参加を語る会	20日	水	職場参加を語る会
21日	月	水上公園共同作業	21日	木	たそがれ	21日	木	Lunch Cafeどこいよ(緑谷川さん)
22日	火		22日	金	水上公園作業予備	22日	金	
23日	水	ピアサポート研究会	23日	土	うんとこしお 雑林公園	23日	土	しらこぼと館
24日	木	たそがれ	24日	日		24日	日	
25日	金	水上公園作業予備	25日	月	ポスタインダ?	25日	月	水上公園共同作業
26日	土	富田フエスタ	26日	火		26日	火	
27日	日		27日	水	ピアサポート研究会	27日	水	ピアサポート研究会
28日	月	ポスタインダ?	28日	木	たそがれ	28日	木	たそがれ
29日	火					29日	金	水上公園作業予備
30日	水	ポスタインダ?				30日	土	しらこぼと館
31日	木	社団ネット所沢会				31日	日	みんな一緒にがんばろう

○ほかのスケジュールは、主に小冊子「たそがれ」の中は、リハビリを兼ねた1～3時間内の屋外のアルバイトです。グループでやるので、初めての方でも大丈夫です。

職場・地域ひろがりつうしん

●水上公園に春の花苗を植えました



11月上旬から中旬にかけて、県営しらこぼと水上公園で、春に向けてパンジー、ピオラの苗を花壇に植え付けました。世一緒及び就労移行をはじめ、就A、就B、生活介護、精神科院内デイケア等、計10施設から、利用者、職員合わせて延べ145名が参加しました。写真は反省会の様子です。

●連合・愛のカンパを頂きました



連合埼玉の推薦により当会の2019年度の事業に対し、連合愛のカンパ・地方助成をいただきました。11月15日、連合埼玉の会議の会場で、クッキープロジェクトや加須ふれあいセンターの代表の方々とともに授与式に参加しました。ほんとうにありがとうございます。

2018年度会費ご納入並びにご寄付、ありがとうございます(五十音順、敬称略)

【会費】 会沢完、青木繁明、阿久津康仁、浅草秀子、朝日雅也、石田貴美子、伊藤峰子、伊藤紀康、今井和美、岩崎廣司、上野豪志、内野かず子、大武昭、大塚眞盛、沖山稚子、尾谷英一、黄川田仁志、癸生川新一、佐藤恵美子、佐藤秀一、清水泰代、鈴木照和、関一幸、莊子敏一、高瀬勇、竹迫和子、田島玄太郎、巽孝子、巽優子、谷崎恵子、辻浩司、並木理、贄田敏之、西陰勲、野村康晴、橋本哲寿、幡本洋子、原和久、原田真弓、日吉孝子、前田直哉、松田和子、松田典子、水谷淳子、森田譲二、谷塚祥子、山川百合子、山崎かおる、山崎有子、山崎泰子、山下浩志、山田裕子、山本正乃、吉田久美子、吉原広子

【寄付】 大竹昭、大家けい子、田島玄太郎、クリタエイムデリカ、瀬戸睿、土居幸仁、辻純志郎、直井利雪、贄田敏之、堀利和、松尾清晴、水谷淳子、山下浩志、山崎泰子

当会はみなさまの会費と寄付金等により支えられています。どうぞ、ご協力をお願いします。

●産業フェスタで交流しました



12月1日、2日こしがや産業フェスタにブースをもって、PRと交流を行いました。厚岸昆布やリサイクル品を販売しながら、共に働く街のイメージを来場者にアピールしました。

●生活クラブと「うんとこしょ」



2017年度、生活クラブ越谷ブロック地域協議会と仕事起こし懇談会 in こしがや、ケアシステムわら細工、そして当会が協働し、「うんとこしょ 共に生きる介護人養成事業」を実施しました。2018年度は、「うんとこしょ会議」を随時開催し、互いの行事に参加・交流できるよう情報を共有しています。2月23日(土)には、昨年引き続き越谷梅林公園に行く企画を準備中です。

すいごご Café News Flash 2018.10.17 ~ 2019.1.16 のゲストの方々



増田由紀子さん
(ヘルパー、障害者の親)

「介助のある暮らし」



村山英子さん
(視覚障害の主婦)

「視覚障害を生きる」



西陰博子さん
(元夜間中学教員)

「夜間中学で出会った人々」



山下浩志さん
(NPO事務局長)

「共生の現在を探る」



萱場由梨さん
(就労移行「世一緒」利用者)

「不良娘から看板娘へ」



水谷淳子さん
(耳鼻咽喉科医師)

「風邪って？インフルって？」



都筑美幸さん他
(お手玉ぼんぼん会)

「お手玉に魅せられて」



菅野秀義さん

(就労移行「世一緒」利用者)

「都庁は俺が建てた」



辻隼門・純志郎さん
(特支学校生徒と父)

「西郷どんびっくり薩摩隼人の少年」



野村康晴さん

(就労移行「世一緒」利用者)

「小売業界で働いたら」



SHU

(スペイン語教師)

「さまよえる性別 Xジェンダー」



迫田ベルタ・ミゲルさん

(アンデスの心)

「アンデスの心とは」



亀田康介さん

(南埼玉病院デイケア利用者)

「わが半生—四十路を前に」

ゲストの方々、お集まりの皆様、ありがとうございました。
詳しい報告はホームページでどうぞ。

<http://e-kyodo.sakura.ne.jp/syokubasanka/suigogo.html>

が、支給要件や期間に制限があり、広く活用されていない。

共にはたらく情報スクラップ

さいたま市、重度訪問介護で全国初の独自支援

(毎日新聞 2018年12月27日)

さいたま市は27日、常に介護が必要な重度障害者が就労すると、働いている間は重度訪問介護サービスを受けられない国の制度を補完するため、在宅就労時も訪問介護を受けられる全国初のサービスを市独自で提供すると発表した。来年度からの実施を目指す。

肢体不自由などの重度障害者は、障害者総合支援法に基づき市町村が実施する入浴や家事などの介護サービスを24時間体制で受けられる。だが、自宅や職場で働いている時間は「経済活動」とみなされ、介護サービスの利用は認められていない。

市は今年、内閣府の地方分権改革有識者会議に在宅就労時も訪問介護の利用を認める規制緩和を提案したが、「2021年度の障害福祉サービス等報酬改定に向けて結論を得る」として判断が事実上先送りされた。

場所や時間にとらわれずに働くテレワークで重度障害者の雇用機会が広がる中、現行制度が就労の妨げになっていることから、市は在宅就労時に限り、訪問介護サービスの提供を決めた。

同市の重度訪問介護利用者は今年4月時点で75人。このうち、少なくとも在宅就労時にやむなく介護なしで働いている人が2人、介護を受けられないと命にかかわるため内定した会社で働けない人が1人いる。

全国96の障害者団体でつくるDPI日本会議(東京)の白井誠一郎事務局次長は「さいたま市の対応は一步前進だが、本来は国が制度を改善すべきだ」と指摘している。

【山寺香】

<さいたま市独自サービス>

「仕事続けられる」重度障害者の声が届く

(毎日新聞 2018年12月27日 埼玉県版)

……厚生労働省は就労中の支援について「恩恵を受ける企業が行うべきだ」との立場。市によると、介護者の確保に係る企業の負担を軽減する助成金制度もある

【さいたま市中央区で一人暮らしをする猪瀬智美さん(29)】

……悩んだ末、働くことを選択。今は不動産会社の契約社員として、在宅でパソコンを使いグラフや議事録の作成などを担当する。午前と午後3時間ずつの就労時間は介護を受けられないため水分を取るのを制限するが、トイレを我慢できず、近所の知人に電話で助けを求めたことも数回あった。

障害者1200人超 採用へ—26県、来年末までに

(埼玉新聞 1月13日 1面)

……このうち精神・知的に拡大する方針を決めたのは10県にとどまり、依然、多くの自治体で排除されている状況も浮かび上がった。

……38県のうち残り12県は「採用数は未定」「追加採用の予定なし」(埼玉県教委など)のほか、既に法定雇用率を満たしているケースだった。

……障害者採用で「自力通勤」や「介護者なしで業務遂行」と不適切な条件を付けていた問題では、該当する32都府県のうち16府県が削除を決定。残りも全てが削除や見直しを検討中だ。

障害者追加雇用 急ぐ自治体 態勢手探り 精神・知的向けに工夫も

(埼玉新聞 1月13日 2面)

……昨年12月の朝、千葉県庁7階にある部署「チャレンジオフィスちば」で打ち合わせが始まった。

……同県はこの部署でこれまでに計50人を雇用した。ただあくまで有期での採用。正規職員としては、今月20日に実施する採用試験で初めて精神・知的にも対象を広げた。

……都道府県で12年から雇用率トップの大阪府は昨年6月現在、法定率(2.5%)を大幅に上回る3.61%を達成。秘訣は障害者がキャリアアップできる仕組みを25年前に設けたことだ。

……雇用率2位の福岡県は年1回、障害のある職員と関係部局の担当者が意見交換会の開催。ハード・ソフト両面で働きやすい環境について話し合う。

世一緒スタッフ日記

NYK

お正月

佐藤 景子

一月一日の初詣、久伊豆神社と香取神社に行つて来ました。三日に家族でレイクタウンに行きました。混雑が凄かったです。

今の暮らし

駒井 リカ

今は精神障害者のデイナイトケアとグループホームの所で暮らしています。

その中で、デイナイトケアでは注意とスタッフから言われたことを守れずに、人の物やお茶やタバコなどに「オレにくれよ」とたかってくるしつこい患者や、人に物をあげたりもらうことが駄目な事に気付かず無駄づかいして人に物あげる患者や、周りの事とスタッフからの注意に気付かず口うるさい口調で周りに迷惑をかける患者が居る事で、私は居づらくなっています。



世一緒では、障害や病気その他の状況による働きづらさを、他の人々と共有し生きるために、世一緒に関わっている人々を「スタッフ」と呼んでいます。サポーター(非常勤やボランティア)の支えを受けて、世一緒の当番(ピアサポート実習)や「語る会」、身近な地域で必要とされる仕事(花壇整備、除草、ポスティング)のグループワーク等もしています。元スタッフ等からの近況報告も紹介します。なお2018年4月からはせんげん台に就労移行支援事業所「世一緒」が開所しました。こちらは制度により定められた職員がおり、通所2年の間に一般就労への支援サービスを提供する場となっています。当会は定められた支援ももちろん、自主事業の世一緒(越谷)と連携して、多様な就労やピアサポートも可能な展開をめざします。

意と、女性仲間とは親しく接するようにはしてあります。これからの私はせんげん台の世一緒と越谷の世一緒に顔出す習慣で、就労に向けてやっつけていきたいです。よろしく。

おそろじとだてまき

中原 清

12月28日から家のそうじがいそがしくて、なかのそうじをして、くものすがすごくて、ほこりがすごくて、きれいになりました。

30日ものおきごやのかたづけをやつて、がらくたがすごくて、てつのがまになりました。ごみをすてるひがきて、せんぶがきました。ごみやさんがとりってきて、せんぶもっていきました。そうじがきれいになりました。

30日かいいものについて、だてまきとたまごがおいしくて、はまりました。元旦から8日までたべました。おとうとにだてまきおとこといわれて、おもしろかったです。いまでもだてまきがたべたいです。うまい。

仕事探しています

陸 天使

昨年一月に仕事をやめ、今は生保をもらいながら、新しい仕事を探しています。

新しい仕事は接客かまた介護の仕事をしたかと思つています。ちよくちよく世一緒にも顔を出したいと思つています。自分の趣味は、アニメやゲームなどが好きで、たまに秋葉原にもよく行つています。これからよろしくお願ひします。

今の私

N S

病院で働いています。実は体調を崩して3週間お休みをしました。今の体調は幻覚がかなり酷く、薬も増えました。しかし、正直、薬が効きません。「生きる」という事すら怖く、仕事も考えられない時、母から「無理して辛いなら今の職場で働かなくてもいいんだよ」の一言に救われました。そこ

からだと趣味

水島 茂治

自分の身体ですけれども、じんぞうの検査、同じ日、午後から精神科、外科、CTスキャンと、このまま一生検査でおわるみたいで、いやになります。でも、しゅみがあつて、旅行とかすもうがスキルアップ、年何回か行くのが楽しみです。



NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内 (ハローワーク斜向かい)
048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www.5b.biglobe.ne.jp/~yellow/

発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒333-0851 川口市芝新町十五一九アステール藤野1F
二〇一九年一月二十四日発行(毎月十二回 二と四と六と八の日) 通巻 第四七二二号
一九九四年八月二十四日第三種郵便承認